

「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場から」

フランス パリ日本人学校 小中学部統括主任 水野 団

目次

- ① 3ヶ月におよぶ情報との闘い
 - 始まりに過ぎなかった…
 - 粛々と準備を進める
 - 求められる判断
- ② 学習を止めるな
 - 日本の学校との情報交換
 - 教科書給付ができない
 - 学習配信
 - オンライン講座
- ③ 今後の課題
 - 6月3日からの新たな始まり

① 3ヶ月におよぶ情報との闘い

- 始まりに過ぎなかった・・・

- 2月，近隣諸国のコロナウィルスに関する情報が続々と入り，3月に入るとフランスも深刻化する。
- 予定を5日早め，12日に修了式・離任式を先に行い，13日に卒業式を終えた。この判断は功を奏した。
- 次の日，レストランやカフェなどを含む，生活に必須とはいえない全ての場所が閉鎖され，15日間にわたる外出禁止令が出る。
- 学校も閉鎖となり，外出には、罰則も設けられた。帰国予定の先生方は予定を早め緊急帰国。お別れは密かに学校で行った。

- 粛々と準備を進める

- 新赴任者の来仏や，入学式・始業式など，先が見えない中，4月10日からの学校再開に向けて粛々と準備を進めた。
- 前任の教頭先生・教務主任の帰国もあり，小野江隆校長先生と，新教務主任の志賀一友先生で運営会議を何度も行う。
- そんな最中、3月27日に声明があり，4月15日までの学校閉鎖期間延長。
- 学校行事など全て見直すが，4月13日，マクロン大統領の演説があり，「5月11日までの厳しい外出制限の維持」という新たな発表だった。
- 再度，計画は白紙。基本はテレワークとし，特別な事情により学校で仕事をするためには，学校長による証明書と外出許可書をその都度作成し持ち歩かなくてはならない。
- 私は自宅から学校に行くまでの15分程度の間に，2度の検問を受け，執拗な尋問を体験した。

- 学校再開にあたっては、校長先生は、そのたびに、大使館、文科省、理事会と連絡・相談を取り合い方向性を定めてきたが、こうした諸機関の時間外でも親身に相談に応じていただき、早急な指針に学校は支えられた。
- 5月7日、11日からの外出制限緩和との発表。
- しかし、内情は段階的な緩和であり、危険地域をレッドゾーンとグリーンゾーンに区分けされ、パリ日本人学校が位置するレッドゾーンでは大きな変化はなかった。
- 新たな情報が更新される度、先生方はテレビをつけ、ラインでやりとりを繰り返し、その度にため息をついたことを思い出される。
- それでも、1km以内の運動や散歩は許され、そんな小さなことに幸せを感じた。

- 求められる判断

- 5月28日，6月2日以降の全土における小中学校の学校再開発表があった。しかし，条件付き。レッドゾーンが解消されたものの，パリ周辺のみオレンジゾーンと新たな「色」が出てきた。
- この地域は中学1年生までしか登校ができない。また，スクールバスは隣の座席を空けること。学級には15名までしか入れない。細かな制限はまだまだある。バス役員の並々ならぬ協力なくして再開はあり得なかった。
- 小学部は1日おきの分散登校を決めた。中学部は，次の期間(21日の予定)まで自宅待機継続。様々な想定をしてきたが，最善策と考える。
- 新赴任者の来仏は今も見通しがたっていない。今後も求められる判断はまだまだあるだろう。

② 学習を止めるな

- 日本の学校との情報交換

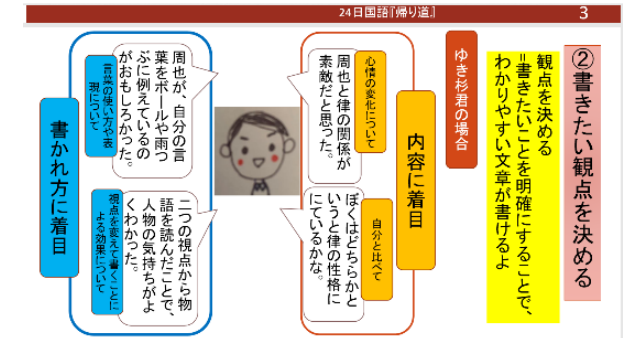
- 早期本帰国する家族もあり，小学部139名，中学部42名で令和2年度がスタートする。そのうち，これまでに51名が日本への緊急一時避難をした。
- 一時帰国者には二重籍や体験入学をすすめ，全ての学校と国際電話にてやりとりをした。その電話では情報交換の場ともなり，1件に30分を超えることも稀ではない。時差もあり，早朝5時から電話をスタートさせる。私が各学校との事務手続きの連絡を終える度に，校長先生もあいさつの電話を行っていた。

- 教科書給付ができない

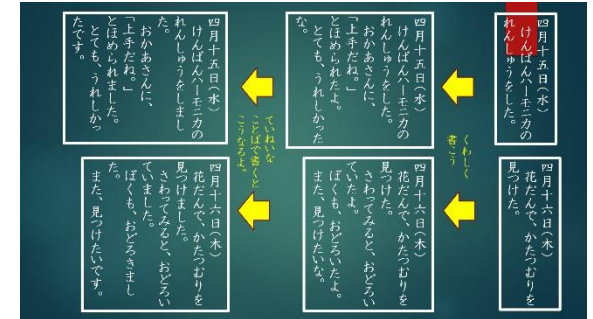
- 教科書が学校に届いたのは4月中旬。フランスの郵便は止まっており、特別に配送できる宅急便で届いた。しかし、児童生徒の元に教科書を配布する手段がない。
- 5月11日の緩和とともに、2日間学校での受取日を設定し、保護者の皆様に取りにきていただいた。交通機関の利用は難しく、保護者同士が協力し合って声をかけあう姿が見られた。
- それでも、全員に給付できたわけではない。どのように学習をすすめていくべきか、教職員の日々の課題であった。

● 学習配信

- 4月10日より，午前中の3時間程度の内容で課題サポートを土日の家庭学習を含め，1日たりとも欠かさずに継続してきた。
- パリ日本人学校の先生方の「学習を止めるな」という一心に尽きると思う。教科書が手元にないだけでなく，プリントを配信しても，プリンターがない家庭やインクが切れて購入できないなど様々な状況があった。
- そこで，PowerPointやPDFでの配信にて，教科書やプリントが手元にない状態でも学習が継続できるようなサポートを行ってきた。
- 主要教科を中心としたが，生活科や音楽，道徳や図工、フランス語なども工夫して学習を進めた。
- この課題作りは，多いときは一日70ページ以上になることもあり，正直，過去にないほどの教材研究であったと感じる。



- 先生方全員が昼夜問わず，曜日感覚もなくなるほどの作業であったことは言うまでもない。生活科や理科の学習配信のために学級園も作った。パリにいる児童生徒だけでなく，当然，二重籍や体験入学などで一時帰国している児童生徒へも配信を行う。
- 保護者や子供達から，「分かりやすかった！」「子供達だけで学習を進められて助かります」といったメールをいただき，その言葉が原動力となっていたと思う。
- オンラインによる生授業も考えたが，全世帯のICT機器やネット環境を調査した結果，兄弟がいる家庭では同時生配信は難しいことも判明した。
- しかし，時間が限定されるが，時間差でWebexを活用し，子供達とのコミュニケーションを図ることはできる。校長による日本からの新赴任者の紹介や，担任による朝の会など様々な場面で活用した。スピーチの場としたり，音楽をかけて皆で踊ったり，質問の場としたりと各学級での様々な運用。子供達との会話は，やはり楽しい。



- オンライン講座

- 4月中旬，素晴らしいお話しをいただいた。
学習支援企画として，NICT・JAXA・NEDO・JST・JAEAの5つの機構の皆様が講座「科学を知ろう～今と科学とわたしと未来～」を行う。
- 1講座につき45分の予定であったが，子供達の興味関心が高く，質問などの対応で80分に及んだこともあった。
- 全8講座行われ，各講座常に90名前後の参加があった。
- 今後も理科・総合的な学習の時間として継続した学習として扱っていく。



③ 今後の課題

- 6月3日からの新たな始まり
 - パリ日本人学校の主要教科における学習は順調にサポートし履修してきたが、今後は定着を意識していくことになる。
 - 小学部は、6月3日より1日おきの分散登校が始まり、今までの学習の復習期間を2週間設ける。テストも行い評価にもつなげていくが、この分散登校がいつまで継続するかによって、学習の内容や教科の選別が必須課題となるだろう。また、同時に一時帰国している児童へのサポートも欠かすことはできない。
 - 中学部においては、オンライン配信が継続されるが、小学部が登校することにより、兄弟関係によるICT機器に関わる心配が大きく解消される。中学部だけであれば、オンラインによる生配信の授業が組めるのだ。これは新赴任者も日本から参加できる。どのような計画ができるか検討しなくてはならないのだが、中学部を束ねる後藤悠中学部部長が部会会議終了とともにすぐにまとめた。この速さが先生方の動きに自然と影響してくるのだと思う。

- 一日4時間授業×5日間の計20時間。国語・数学・理科・社会・英語を各学年で4時間ずつ配信。一日4時間のうち、2時間のオンライン授業も可能になってくる。その他、5時間目に保健や音楽、技術・家庭・フランス語などを設定していく。しかし、かなり先の見通しと計画が鍵となるだろう。

授業計画案															
曜日	月			火			水			木			金		
学年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
8:45～9:15	英語	国語				英語		国語	理科	社会			国語	理科	
9:35～10:05			理科	理科	社会		国語				社会	国語			英語
10:25～10:55	社会	英語				国語		数学	社会	理科			数学		
11:15～11:45			数学	数学	理科		英語				英語	数学		数学	社会
通常配信	国語	理科	社会	英語	国語	社会	数学	理科	数学	英語	国語	理科	理科	社会	国語
	数学	数学	国語	社会	英語	数学	理科	社会	英語	国語	数学	英語	社会	英語	理科

- 学校が本格再開したあとも、やるべきことは盛りだくさんだ。今できることを確実に、少しずつやり遂げていきたい。
- 子供たちと出会える喜びをかみしめながら！！